

人や自然に優しい 住み良いまちをめざして 第二回 浦添市まちづくりプラン・賞決定!

浦添市では、市民主体の協働（パートナーシップ）のまちづくりをめざして、「第一回浦添市まちづくりプラン賞」を設定しました。これは市民のまちづくりに関する意識を高め、魅力あるまちづくりを形成することを目的としています。

具体的には、市民が活動・計画案をつくり、実現するための費用を、市が助成するというものです。

今年八月に募集したところ、自治会など十二グループの応募があり、公開審査の結果、四グループを「まちづくりプラン賞」として、一グループを「まちづくりプラン賞・後援団体賞」として決定しました。

公開審査と五グループの活動・計画案を紹介します。



公開審査

十月九日（土）市役所九階講堂で公開審査が行われました。十二のグループの代表がそれぞれの活動・計画案を発表しました。

発表は「渡り鳥が羽根を休めた松の木を復元させたい」といった計画や、すでに市で計画のものなどもありました。

ユニークな発想に会場が爆笑の渦に巻き込まれるなど、まちづくりへの夢と熱意にあふれた発表でした。

各グループの豊富なアイデアに、審査委員の十人をはじめ、参加者たちも熱心に聞き入っていました。



発表終了後、審査委員との活発な質疑応答があり、審査委員からは、失われていく浦添の良き部分の回復について意欲的であるとか、三グループがまとまって取り組むとより効果がでるのではないかなどの意見が出ました。

また、参加者からは「プラン賞も良いが、公開審査という手法は、いろいろな人の意見を聴くことができ、とても勉強になりましたとの感想が寄せられました。」

公開審査の締めくくりとして、池田孝之委員長（琉大教授）は、「今回の応募者には自分の庭だけをきれいにするのではなく、地域の人たちに貢献しようという姿勢を感じます。今後も活動の中心となつて活躍していただきたい。」と述べました。

プラン賞表彰式 助成金授与式

十一月二日（火）市長応接室で、公開審査を経て選ばれた五グループに対する表彰と助成金の交付がありました。助成金の交付を受けた浦添市自治会からは、「緑化活動行つのに予算的にきびしい中、プラン賞のことで知り、みん

自分の考えたまちづくりが実現できることはすてきなことです。来年はあなたも応募してみませんか。問い合わせ 都市計画課 八七六 一三三四（内線 四〇一五）



なで話し合い応募しました。選ばれて、大変うれいす。」と語っていました。

表彰式で池田審査委員長は「作品は甲乙つけがたいものばかりでした。選ばれたグループは、活動状況を、ぜひ、市民に見せてほしい」と話しました。宮城市長は「計画の実現が市民主体のまちづくりの一步を踏み出すことになり、とても有意義なことです。頑張ってください」と受賞者を激励しました。

オオゴマダラを楽しむ会

代表者 親富祖 善 繁
助成金額 二十二万円
内 容

浦添大公園や許可を得られる場所でオオゴマダラを増やす活動です。オオゴマダラは日本最大（体長平均約十六cm）の蝶といわれています。この他にも飼育しやすい蝶や昆虫の増殖にも取り組みます。



オオゴマダラ

牧港川をきれいにする市民の会

代表者 岡 美 治
助成金額 二十二万円
内 容

牧港川の浄化運動。牧港川は水質汚染が激しく、悪臭もそうとう強いです。昔は川に入って魚取りや、虫などを採ったり、川は子どもたちにとって絶好の遊び場でした。現在、浦添市に

市内の森や、草原、水辺に関心をもち、子どもたちと一緒に自然を楽しみ、将来の自然のあり方を考えることが目的です。具体的には、いろいろな団体に呼びかけて、オオゴマダラの食草「ホーライカガミ」の苗を栽培し増殖します。豊かな緑の中を蝶などが優雅に飛んでいる、そんな自然に恵まれた浦添を目指します。

浦城自治会

代表者 玉 城 英 子
助成金額 二十三万円
内 容

浦城自治会地区は都市化が進み、コンクリートジャングル化しつつあります。自然との関わりが薄れ、地域の景観も寂しい雰囲気となっています。しかし、自治会には花に興味をもっている人が多く、花づくり活動を展開しようということになりました。

自治会内には自由に使える有地などがないため、調査の結果、自治会内にある道路残地（市有地）の有効利用を考えました。そこに花や緑を植え、街のなかのガーデンングを行います。



道路残地の部分に花や緑を植えます

トラフ

代表者 具 志 裕
助成金額 十五万円
内 容

トラフは建築家のグループです。浦添市は公園整備や道路整備が進み、街の活性化が計られています。事業主体である市の計画に、使い手である市民の声が反映されれば、浦添のまちづくりは尚一層活気づくのではないのでしょうか。それを結びつける方法として、まちづくりフェスタの開催を計画します。展示会やフリーディスカッションを通じ、まちづくりへの関心が深まり、市民・行政が一体となったまちづくり体制が生まれることを目指します。



まちづくりの展示会で意識を高めます

第2回浦添市まちづくりプラン賞決定

～こんなふうにしたらきっとステキな街になる～



公開審議のようす



まちづくりプラン賞を受賞した6団体

7月7日(土)市役所9階で「第2回浦添市まちづくりプラン賞」の公開審査が行われました。

これはまちづくりのプランを市民や団体が計画をし、市が支援するという事業です。今年の応募者は9団体。儀間市長は「浦添市はコンパクトでまちづくりするには適したまちです。まちづくりは市民のニーズにどう応えていくかが大きな課題。市民参加のまちづくり事業に協力いただき、みなさまには心から感謝いたします」と話していました。公開審査では5分間の持ち時間の中で、自分たちのプランを一生懸命説明しました。その後、12人の審査員から各グループに鋭い質問がありました。所定の時間をオーバーするほど白熱した審議の結果、最終的に6団体の受賞が決まりました。

7月16日(月)に市長応接室でまちづくりプラン賞の受賞式が行われました。池田孝之委員長(琉大教授)は「各グループとも優秀で選考が難しかった。皆さんはまちづくりの活動モデルとして啓蒙の一端を担っています。いい成果をだして来年発表してください」と講評しました。

来年は皆さんも参加して、自分の手でステキなまちづくりを体験しませんか？

問い合わせ
都市計画課

87611234(内線4015)

茶山自治会



代表者 大濱勝彦

助成金額 25万円

「浦添城址をホタルの里に！」をテーマに水生生物等を蘇らせ、夜空にホタルが飛び交うような自然豊かな環境づくりを目指します。具体的には小湾川の上流域で、茶山団地と前田地域との境目にある小湾川に注ぐ小さな水路を中心に清流を取り戻す活動を展開します。

勢理客自治会、獅子舞保存会、その他



代表者 具志堅全盛

助成金額 20万円

獅子舞は勢理客の伝統芸能で、市の無形文化財に指定されています。その獅子舞をモチーフに、地域内をはしる市道34号線(海銀勢理客支店からサン食品までの600m)にシーサーの置物を設置し、潤いのある住民参画型の道路景観作りに取り組みます。

宮城子ども会



代表者 喜舎場宗正

助成金額 26万円

「宮城再発見ワークショップ」「子どもたちと一緒に宮城を見つめてみよう」というテーマで、子ども会を中心に小湾川の川歩きを始めとして、宮城の歴史や緑などの自然をみんなで調べ、「宮城ってこんなところマップ」をつくります。最終的には「あの場所を改善したいな、この場所をすっきりと残していきたいな！」などまちづくりへの提案をします。

にしはら A G U R I 隊



代表者 棚原栄

助成金額 26万円

「コミュニティ・ガーデン(農園)をつくろう！」西原地内にある遊休地を、地域内外の人たちが土に触れあいながら交流の場となるコミュニティ菜園として有効利用し、地域活性化を図ります。その為に、農地探検マップの作成、ハルサー名人捜しなどのワークショップを行い、地域の農文化を再確認し、対象地を捜し土づくりから始めます。

浦添まちづくりトラスト活動研究会



代表者 安次富恵理奈

助成金額 10万円

「まちづくり活動ネットワーク」をテーマに住民活動の交流を通じて、地域に根ざしたパートナーシップによるまちづくり活動の活性化を目指す。「まちづくり活動マップ・人材リストづくり」や「みどりのまちづくり交流ワークショップ会議」を開催します。

オオゴマダラを楽しむ会



代表者 親富祖善繁

助成金額 8万円

オオゴマダラや他の飼育し易い蝶を野外で増やします。オオゴマダラは日本最大の蝶といわれそのさなは金色で美しく、ホーライカガミを食草として育ちます。また、市内の森や草原、水域で子どもたちと自然を楽しみ、自然のあり方を考えます。

こんなふうにしたら きっとステキな街になる

第3回浦添市まちづくりプラン賞決まる!



7月13日(土) 市役所9階で「第3回まちづくりプラン賞」の公開審査が行われました。これは市民のまちづくりに関する意識を高め、魅力あるまちづくりを形成することを目的とし、実現するための費用を市が助成するというものです。今年度は9団体が応募。外間収入役は「応募された皆様の熱意ある取り組みに敬意を表し、アイデアに満ちた活動計画の発表に期待致します」と挨拶しました。

公開審査では、前年度受賞団体の活動発表の後各団体5分間の短い持ち時間中、自分たちの活動・計画案を一生懸命アピール。その後、審査員との活発な質疑応答があり「地域との関わりは?」「一つのやり方にこだわらず、工夫して別の方法も

取り入れてみたらどうか」などの意見が出ました。選考審査では観客から「おもしろい」という声も上がるなど盛り上がりを見せました。最終的に、6グループが「まちづくりプラン賞」として決定しました。

審査を終えて池田孝之委員長(琉球大学教授)は「受賞団体は公開審査で指摘を受けた点を踏まえつつ、他団体の模範となる活動を期待したい。また、選から洩れた団体についても、企画の再検討や地域とのつながりを考慮することで今後の活動に期待がもてるものもあり、またチャレンジしてほしい」と述べました。

自分の住む浦添をこんな街にしたいというプランを、来年はあなたが計画してみませんか。

**問い合わせ
都市計画課
876-1234
(内線4015)**

内間自治会

代表者 知花 秀雄
助成金額 30万円

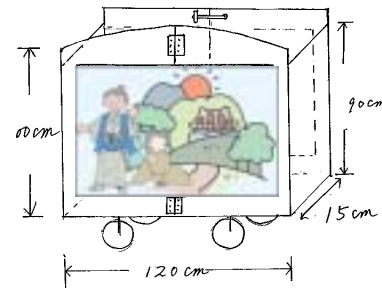
内容 内間西公園周辺を拠点として、公民館で体験型自然学校(じんぶんがっこう)をつくり、身近な自然と、地域の方々のふれあいにより、たくさんの自然体験を共有共感します。学校は「健康つくりたい科」「工作したい科」「料理食べたい科」「農業しよう科」「環境考えよう科」「文化・史跡知ろう科」の六つに分かれ、地域の知恵者、専門家を講師に地域住民がだれでも参加できる場をめざします。



ニュータウン自治会

代表者 池宮城 ツル子
助成金額 7万円

内容 住み慣れた地域の公民館などに高齢者や、児童生徒が集まる機会をたくさん作るため、大型紙芝居(方言、日本語、英語)を作成します。紙芝居を劇化し、失われつつある郷土の行事等絵を通して、経験豊かな高齢者から伝統文化について学んだり、将来を担う子どもたちの夢を高齢者の前で発表するなど、紙芝居のみならず主体的活動のてだてとします。



茶山自治会及び浦添小学校

代表者 大濱 勝彦
助成金額 30万円

内容 浦添城址の夜空にホタルが飛び交うような自然豊かな環境づくりをめざします。今年度は浦添小学校と連携して、ホタルの幼虫の飼育に実験的に取り組みます。また、茶山団地内や浦添小学校敷地内を整備し、「ホタルの幼虫の住家」をつくるため、地域のみならず美化活動を行います。

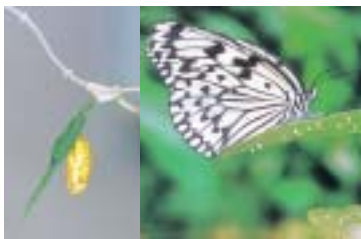


▲バットによる幼虫の飼育

オオゴマダラを 楽しむ会

代表者 親富祖 善繁
助成金額 8万円

内容 オオゴマダラや他の飼育しやすい蝶を野外で増やします。オオゴマダラは日本最大の蝶といわれ(体長平均約16cm)そのさなぎは金色で美しく、ホーライカガミを食草として育ちます。活動をはじめて3年目の今年は、昨年市運動公園に植えた食草の維持管理に努めます。また、通り会などに呼びかけ、屋敷内、道路沿いに食草を増やし、自然保護に関心を持つ人を育てます。



▲オオゴマダラとさなぎ

ホタルの舞うス テージを育む会

代表者 知名 忍
助成金額 10万円

内容 ホタルが棲める環境をみんなで考え、宮城のノロガーをホタルの舞うステージに育むことを目的としています。具体的には、活動に対する理解や協力を得るための参加呼びかけをしたり、専門家を交えてホタルに関する勉強会を開き、生息条件や阻害要因などの現状把握調査を行います。



▲今回みんなで考える場所

当山エコキッズ

代表者 盛島 明秀
助成金額 30万円

内容 現在の牧港川は、水が汚れ、臭いもくさく、多くの川魚やカニなどが消えています。そこで、当山小5年のエコキッズでは、牧港川を以前のようにメダカの住める川にしたいと考え、環境にやさしい有用微生物等を使って川の水をきれいにするにしました。澄み切ったきれいな水が流れていたら、川遊び、散策や休憩なども楽しくなり、もっと素敵な川になると信じ取り組んでいます。



奨励賞受賞団体は、ユニークな切り口や今後の活動が期待されており、今後につながる活動計画を検討・実施し、次回また応募していただきたい。

活動内容が幅広くなり、行政側も横のつながりを意識した支援体制づくりを検討し、取り組んでいた。

第4回「まちづくりプラン賞」は、ホタルやオオゴマダラ・牧港川などの環境・自然系を中心とした活動内容が多く、市民の関心の高さがうかがえた。活動計画の内容やプレゼンテーションの技術も向上しており、奨励賞を含め11団体が受賞という審査結果につながった。一方「もの・かたち」づくりにつながる活動が少なく、今後期待したい。受賞団体は審査委員からの指摘事項を踏まえ、事務局と調整の上執行していただきたい。また地域とのつながりをもとより、団体同士の交流も行っていただきたい。

講評



審査委員長
琉球大学工学部教授
池田 孝之氏



第4回 まちづくりプラン賞決定!

～こんなふうにしたらきっとステキな都市になる～



6月28日(土)浦添市役所9階で第4回まちづくりプラン賞の公開審査が行われました。まちづくりプラン賞とは市民のまちづくりに関する意識を高め、魅力あるまちづくりを形成することを目的とし、実現するための費用を市が助成するというものです。

開会式で儀間市長は「応募された皆様の熱意ある取り組みに敬意を表し、アイデアに満ちた活動計画の発表に期待致します」と挨拶をのべました。

審査会では各団体が審査員の前で、考えたプランの計画、内容を一生懸命発表しました。今年のまちづくりプラン賞は11団体12件が応募、その中の8団体が受賞しました。今回は受賞団体を紹介します。

また、今年から奨励賞が設けられ「緑ヶ丘自治会」「株式会社イーエーシー」「NPO法人ライフサポートでだこ」の3団体が受賞しました。

オオゴマダラを 楽しむ会

助成決定額 10万円
代表者 親富祖 善繁

オオゴマダラを増やす活動

- ・チヨウやその食草を通して自然を学び、自然豊かな地域づくりを目的とし、運動公園を拠点とし食草の維持管理や、苗の配布、蜜源となる花の植え付けを行う。

茶山自治会

助成決定額 20万円
代表者 儀保 博信

浦添城址をホタルの里に!

- ・「浦添城址をホタルの里に」をキャッチフレーズに、自治会と浦添小学校のパートナーシップによるまちづくりを展開。ホタルの飼育や生息マップづくり。広報・美化活動など。

ニュータウン 自治会

助成決定額 4万円
代表者 池宮城 ツル子

大型紙芝居による地域「コミュニティ」の再生

- ・昨年の「太陽の王子」に続き、地域在住者の原作による「察度王」物語を紙芝居化し、歴史ある「てだこのまち」に誇りを持てるよう地域や学校、その他施設で公演を行う。

牧港子ども会 環境探検隊

助成決定額 20万円
代表者 根島 正男

清ら川 牧港川を取り戻そう

- ・地域・牧港川周辺を散策(探検)し、現況をまとめ、浄化活動や花壇づくり、看板設置、クリーン作戦等を等して「清ら川牧港川」に戻すための啓発・啓蒙を行う。

当山エコキッズ

助成決定額 10万円
代表者 盛島 明秀

牧港川の蘇生

- ・微生物を利用した浄化活動を行い、看板設置やチラシ配布などの啓発活動を行う。また、浦西中と連携した活動も行い、有用微生物を利用した、さらなる環境に優しい取り組みを行う。

やふそ遊々ホタル & オオゴマダラ

助成決定額 11万円
代表者 宮城 富士雄

ホタルや蝶が舞う公園づくり

- ・公民館に隣接したなかし公園や公園緑地課「花とみどりのまちづくりフェスタ事業」で整備された拝所周辺でホタルやオオゴマダラが生息できる環境づくり(勉強会、趣旨説明の看板設置、チラシ等による広報等)。

ホタルの小道を 育む会

助成決定額 10万円
代表者 安里 宗健

まち中のコミュニティガーデンづくり

- ・ホタルが棲める環境づくりを、公園緑地課「花とみどりのまちづくりフェスタ事業」で整備された小道周辺で行い、また広報活動や宮城地内のホタルの生息マップづくりを行う。

仲西子ども 一丁目育成会

助成決定額 15万円
代表者 伊智 保美

ミミズを育て、花を育て、地帯の子どもたちを育む

- ・ミミズの飼育を通して循環型の生態系を体験し、また花いっぱい活動に利用する。地域のエコ活動を子どもたちが担い公民館を拠点とした参加型の活動を展開する。



**牧港子ども会
環境探検隊**
プラン賞 助成金 22万円
 代表者 根島正男

「牧港川を美ら川に戻そう！」を合言葉に清掃、看板設置、チラシ配りによる啓蒙活動と川沿いの壁に牧港川の年代別風景画を描き、壁画を通して川の浄化を訴えたい。

第5回 浦添市まちづくりプラン賞決定

浦添市
こんなふうにしたらきっとステキな街になる



7月3日(土)、市役所9階で「まちづくりプラン賞」の公開審査が行なわれました。「まちづくりプラン賞」は市民や団体が主体となり、「こんなふうにしたらきっとステキな街になる」というような計画をし、実行しようと活動している方々を支援し、協同(パートナーシップ)による街づくりを進める事業で、今年で5回目を迎えました。今年の応募者は9団体で、それぞれ、持ち時間の5分間で、浦添市をよりよい街にするために練ってきたアイデアと情熱を12人の審査員と集まった市民にアピールしました。

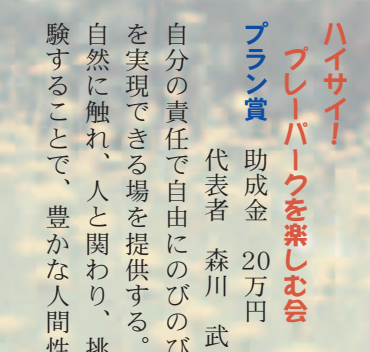
応募されたプランには自治会・学校単位での環境浄化活動や、蛍や蝶を増やそうという自然環境作りといった環境整備的なもの、文化の伝承、演劇による人材の育成といった物質的なまちづくりの概念を超えたバラエティー豊かでユニークなプランがそろいました。

審査は、地域に根差しているのか、新しい視点か、実現性が高いか等を踏まえた上で行なわれ、5団体がプラン賞を受賞しました。また、プラン賞には届かなかったが、魅力ある浦添市にするために活動を続けることを奨励する奨励賞を3団体が受賞しました。



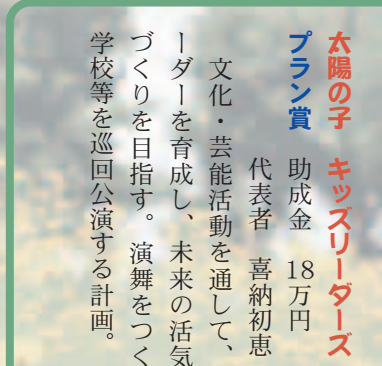
**エコトーンづくり
少年探検隊**
プラン賞 助成金 20万円
 代表者 田中一郎

蝶・蛍・トンボの舞うエコトーン(人里)をつくり、自然と共生することで、感動と感性溢れる人間形成や生きる力・生命の尊さ・はかなさを体得してもらうことを目指す。



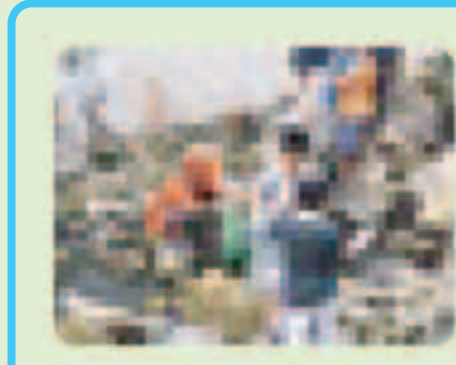
**ハイサイ！
フリーパークを楽しむ会**
プラン賞 助成金 20万円
 代表者 森川 武

自分の責任で自由にのびのび、したいことを実現できる場を提供する。遊びを通して、自然に触れ、人と関わり、挑戦や失敗を体験することで、豊かな人間性を身につける。



太陽の子 キッズリーダーズ
プラン賞 助成金 18万円
 代表者 喜納初恵

文化・芸能活動を通して、地域の若いリーダーを育成し、未来の活気あふれるまちづくりを目指す。演舞をつくり、市内養護学校等を巡回公演する計画。



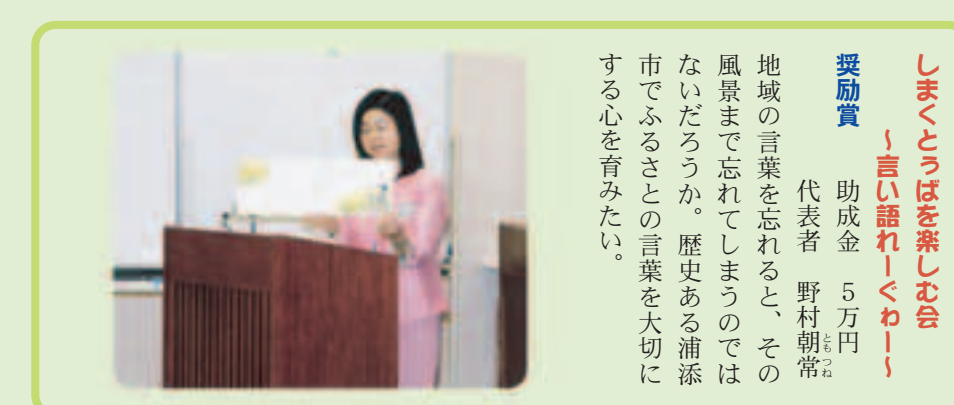
浦添市当山小学校
プラン賞 助成金 20万円
 代表者 新城正枝

清い水にメダカが泳ぐきれいな牧港川を取り戻すことを目指す。そのために、川の水質検査・ゴミ拾い・チラシや新聞、看板などによる川の浄化に関する広報活動を行なっていく。



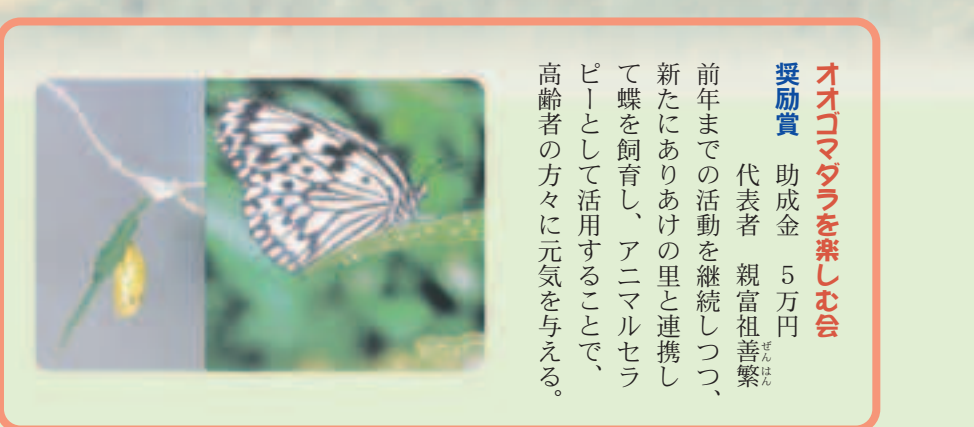
**認可外保育施設
ベビーシッター乳児園**
奨励賞 助成金 5万円
 代表者 比嘉節子

牛乳パックや資源ごみを集め、イスや写真立てとして再利用する。施設内の空き部屋を有効活用でき、地域のコミュニケーション活性化も期待できる。



**しまくとぅばを楽しむ会
「言い語れ〜くわ〜」**
奨励賞 助成金 5万円
 代表者 野村朝常

地域の言葉を忘れられると、その風景まで忘れてしまうのではないだろうか。歴史ある浦添市でふるさとの言葉を大切にすることを育みたい。



オオコマタラを楽しむ会
奨励賞 助成金 5万円
 代表者 親富祖善繁

前年までの活動を継続しつつ、新たにありあけの里と連携して蝶を飼育し、アニマルセラピーとして活用することで、高齢者の方々に元気を与える。

市民参加協働への取組状況

事業名	内容	対象	主管課
若夏の都市緑化推進運動	草花等の配布	自治会等緑化団体	公園緑地課(内4061)
秋の都市緑化推進運動	草花等の配布	自治会等緑化団体	公園緑地課(内4061)
10万本花いっぱい運動	草花等の配布	自治会等市民憲章構成団体	市民生活課(内3012)
地域緑化推進樹木等配布	草花・樹木・堆肥等緑化資材の配布	自治会等緑化団体	公園緑地課(内4061)
生垣・壁面緑化助成制度	民有地の壁面に対する緑化助成	一般市民	公園緑地課(内4061)
不要樹木移植	市民が不要となった高木の移植	一般市民	公園緑地課(内4061)
公園愛護会	地域住民による公園の維持管理活動	自治会等地域団体	公園緑地課(内4061)
道の愛護会	植樹帯の草花による管理活動	一般市民・団体	道路課(内4564)
花と緑のまちづくりフェスタ	地域の緑化計画に対する支援事業	自治会等緑化団体	公園緑地課(内4061)
まちづくりプラン賞	市民の自発的なまちづくり活動への資金助成	一般市民	都市計画課(内4015)
市民の広場(市民菜園)	申し出のあった民有地を市民菜園として利用	一般市民	環境保全課(内3216)
まちづくり学校	まちづくり体験学習講座	一般市民	都市計画課(内4015)

まちづくりに関する支援は、「まちづくりプラン賞」以外にもございます。左記の表を参考にお気軽にお問い合わせください。

こんなふうにしたらきっとステキな街になる

～あなたがつくる浦添市～



うらそえ美らまち夢プラン賞決定

「美らまち夢プラン」は、市民が自ら考え、行動する「地域づくり活動」を助成するものです。地域の生活や自然環境の向上を目指した活動、また世代間交流や地域の交流といったコミュニティの活性化を目指した活動などが助成の対象です。

今回、「美らまち夢プラン」への応募は8団体でした。それぞれの団体が、浦添市をより良くしようと練り上げた構想を審査委員と集まった市民にプレゼンテーションしました。「こんなふうにしたらきっとステキなまちになる」という思いを込めた計画は、それぞれ個性があり、すばらしいものでした。

プレゼンテーション後、どの団体にも多くの質問が審査委員から出されました。

審査委員会は、様々な地域づくり活動をしている方々で構成され、魅力あるまちづくりに関わる活動を審査の視点に、受賞団体と助成額を決定しました。

審査結果は以下のとおりです。各団体とも希望助成額どおりではなかったかもしれませんが、プレゼンテーションで見せたまちづくりへの意欲と熱意でカバーできると感じました。どうぞ、助成金を有効活用し、市民が浦添市に住んでいることを誇りに思えるようなまちづくりをしてください。

プラン賞

● 港川自治会
助成金 20万円
代表者 銘苅 全郎
港川地域の自然「カミージ」で生態観測や干潟エコ体験をおとし、地域資源を保全した街づくりに結びつける。

● NPO法人
うらそえ歴史ガイド友の会
助成金 21万円
代表者 山城泰一郎
浦添グスクを周辺でウォークラリーを行ない、歴史文化財を伝える。同時に活動を通し地域コミュニティの場とする。

● 経塚子ども会育成会
助成金 19万円
代表者 与那原良明
経塚公民館前を「ゆいまーる通り」とし、子どもからお年寄りまで地域の人々に夢を与え、異世代が交流する通りにしたい。

● ありあけの里
助成金 14万円
代表者 嘉手苅 茂
オオゴダラが群舞する老人ホームにし、子ども達や施設訪問者とお年寄りの「ふれあいの場」コミュニティホームを目指す。

● エコトンづくり少年探検隊
助成金 15万円
代表者 田中 一郎
自然から得る、優しい心や感性を育てるため、お年寄り・大人・子どもで蝶やホタルの舞うエコトーン(里山)を作る。

奨励賞

● 内間自治会
助成金 16万円
代表者 下地 健造
内間西公園付近で地域の老若男女の人々と自治会が協力し、鯉のぼりフェスタを行ない、地域コミュニティの活性化を図る。

● ハイサイ!
プレーパークを楽しむ会
助成金 5万円
代表者 仲田 弘二
遊びを通し豊かな人間性を育てるプレーパークをもつと浦添市民に伝えるため、地域・行政・企業で啓発活動をすすめる。

● (株)アクア・カルチャ・オキナワ
助成金 5万円
代表者 平良 栄康
子ども達と共に、沖縄の美ら海を守り、育てることを目指す。会社の養殖施設で海洋生物を見せ、研究・学習の場を提供する。

問い合わせ

浦添市役所都市計画部美らまち推進室
☎876-1234 (内線4064)



ゴーヤー オクラ

浦添市

こんなことしてきます

―浦添市民の広場―

浦添市の独自の事業に「浦添市民の広場」の制度があります。十分に管理ができないあき地を所有者に替わり、市が管理し、あき地環境を良好に保つと同時に、市民に有効活用してもらう制度です。

知っていますか?

ハフ条例と草刈条例

みなさんは、ハフ条例、草刈条例をご存じですか。条例の正式な名称は各市町村によって異なりますが、ハフ条例は「ハフによる被害と驚異を取り除き、市民生活の安全を図ること」、草刈条例は「あき地等に繁茂している雑草を除去すること」、火災・犯罪を予防し、清潔な生活環境を保持すること」を目的としている条例のことです。

浦添市には、ハフ条例と草刈条例をまとめた「ハフによる被害の防止及びあき地の雑草等の除去に関する条例(以下、ハフ・草刈条例という)」があります。

あき地所有者の義務

このハフ・草刈条例には、あき地所有者の義務が記されています。雑草を除去することや不法投棄の防止措置をとらなければならないことなど、所有者は、あき地が不良状態とならないように管理しなくてはなりません。あき地の管理が不十分だと、雑草が繁茂し、蚊や害虫の発生源となります。雑草の生い茂ったあき地は、犯罪や不法投棄を誘発します。また、ごみの投げ捨てにより、ねずみが集まり、さらにはねずみを餌とするハフがよつぎきて、危険な状態になります。

管理ができない空き地を市民菜園に

あき地の管理が十分にできない所有者の方は「浦添市民の広場」の制度を利用できないかを環境保全課にご相談ください。

浦添市は独自の事業として、昭和62年からこの制度をスタートさせています。制度の内容は、地主が当分(3年以上)使用する計画のないあき地について、地主の方からの依頼があれば、市がそのあき地の管理を行います。

管理を依頼されたあき地は、「浦添市民の広場」として「市民菜園」や「遊び場」に活用し、市民に広く利用していただきます。

地主があき地を利用するまでの間、不良状態を解消し、生活環境の向上を図ることが目的なので、構造物

市民菜園を利用している 与那城 忠さん



市民菜園は2年前に借りました。口コミで市役所が菜園を貸してくれると聞いたことがきっかけです。おかげで毎日楽しく作物を育てています。今は、ゴーヤー、オクラ、パパイアなどを栽培していますが、秋から春にかけては、ほうれん草やからし菜など葉野菜が中心です。孫達もジャガイモやトマトを収穫するのを楽しんでいます。

ほんとは買うほうが安くつくし、難儀もしなくてすみますが、肥料や農薬を使わないようにしているので安心して食べられるし、子どもや孫達もおいしいと言ってくれます。なにより、毎日手間をかけて一生懸命育てたものを収穫する喜びは何にも替え難いものです。

問い合わせ

環境保全課
☎876-1234
(内線3216)